

LULUの勝手に ドラマ談義5

～2015・
冬～

LULU



ビジュアルであらぬ疑いをかけられた「掟上今日子の備忘録」

今回「おすすめのドラマは?」と聞かれて、最も無難に挙げられたドラマが「掟上今日子の備忘録」でした。最初は白髪でメガネの新垣結衣のビジュアルにドン引きしていたのですが、実際に見てがらりと印象が変わったんです。これって製作者の作戦?!

眠ると記憶が無くなるという忘却探偵掟上今日子役の新垣結衣が、厄介(やくすけ)という名前を背負いその名の通りに運がなくて厄介ごとばかりを引き受けてしまう羽目になる岡田将生さんと、意外にもいいコンビで事件を解決していくという、ラブコメディ。

最初は、軽いタッチのミステリーだろうと本当に気楽な気持ちで見てもいたのですが、案外毎回奥が深く、白髪のガッキーも途中からしっくりきて、ビジュアル先行のイロモノというよりは、ちゃんとしたヒューマンドラマになりえていました。

案外、今日子の周辺を固めるサポーター役たちがいい味出していて、ミッチーも謎多き店主役が合っていました。

これ、スペシャルか何か放送されないかなあ。

それにしても、岡田将生の懐の深さってハンパない。一気に注目俳優に!!

シリアスもコメディもいけるイケメンって、貴重!

久々月9に夢中!「5時→9時～私に恋したお坊さん～」

山Pのボソボソトークと、石原さとみのレッツイングリッシュで、セリフ入り乱れての混乱が予想されたものの、蓋を開けば王道恋愛もので、結局は山Pの押せ押せ強引男子っぷりがかなり胸キュンだった月9!

いやあ、月9をここまで真剣に見たのって久しぶりじゃないかなあ。

「デート」も良かったですけど、よりリアルな恋愛もので、よりスカッと女心を鷲掴んでくれるあたり、やりましたなあ、フジテレビさん!

ニューヨークで働くことを夢見て慎ましく暮らしていたじゅんこ(石原さとみ)のもとに、突然の見合い話。相手は「嫁にしてさしあげます」と上から目線のお坊さんだった!

真逆の将来に完全拒否する女に、めげずに愛を告白するお坊さん。そのひたむきさにほだされたじゅんこはついに寺に嫁入りすることを決意するも、強靱に反対するおばあさま(加賀まりこ)の妨害に、二人の恋路に暗雲が立ち込めるのだが・・・

まあ、ハッピーエンドですよ。そりゃ。

わかってたんですけど、やっぱりホッとしちゃったラスト。お寺にクリスマスツリーはないわ～と白けつつも、やっぱりほっこりしちゃう(笑)この辺が、恋愛ドラマのニクイところではあります。

ああ、あんな風に強く求められて、強く愛されて、大きな力にハート奪われたいものよー。これって女子共通の憧れじゃないだろうか。

ま、男が山Pでなかったら、ただの恐しいストーカー話ではあるのですが、そこはビジュアル重視で丸く収まりました。はい。

篠原涼子のスタイルの良さに目を奪われた「オトナ女子」

いつまでも自分たちのことを「女子」と名乗る、いい年に差し掛かった女たちが自分の幸せを求めて恋に仕事に奮闘する姿を描いた「オトナ女子」。

まあ第一印象最悪同士で、いつも言い合っていた二人が実は惹かれあっていて・・・という流れは、かつての 트렌디ドラマやっほーで、男衆が江口洋介や谷原章介となれば素質十分ではありましたが、何となく深みに欠けた印象でした。

篠原涼子が仕事に頑張っている女で、小綺麗なマンションに住み、スタイル抜群で着ているものも持っているものもオシャレ・・・という、これぞかつての 트렌디ドラマ!ってやつでしたが、今見ると現実離れ半端なく見えるのは時代のせいかな。

母親離れできない吉瀬美智子も、花屋を経営する立派な独立女子。途中経営が云々という話もありましたが、自分の店を持つこと自体、すごいなあとこれまた半分は親身になれず。

鈴木砂羽演じるシングルマザーが唯一生活感溢れていて、子供が素直でいい子たちばかりでほっこりしましたが、期待の年下男子との恋愛模様が今ひとつ盛り上がりせず、描写も少なくて不満。もうちょっと恋愛最前線に混ぜてくれても良かったと思うのー!!

ま、篠原涼子のすっぴんは可愛かったけど・・・でも途中「ま、何でもいいや」と手早く化粧を塗りたくるシーンの次が完璧美肌メイクだったのには引いちゃったよ。現実には白塗り厚塗りおばけ仕上がりなのよねえ、焦ってしたメイクなんて。そかもリアルで一つ・・・

篠原涼子の職場での孤立感が痛々しくて、平山あやが悪魔に見えましたが(汗)そのフォローはあんまりなかったですね・・・よく和気あいあいとラスト飾れたわねえ。女は怖い。

とにかく、大人の女の恋愛は迷走しても地に足がついているってことかしら。あんまり盛り上がらないのは致し方ないのか!

悪い夢を見ていたようなドラマ「偽装の夫婦」

今や伝説となっているおばけドラマ「家政婦のミタ」でおなじみ遊川脚本ということで、注目度が高かったドラマ「偽装の夫婦」。

とある出来事がきっかけで人間嫌いの愛想笑いで全てを乗り切ってきた嘉門ヒロ(天海祐希)。そこへ自分を殻に閉じ込めた張本人である男(沢村一樹)が突然現れた。自分がゲイであることを告白した彼は、余命いくばくもない母親のために偽装の夫婦になろうと持ちかける。

男はゲイであることに苦悩する、幼稚園の園長代理。能天気で愛溢れる彼は、ヒロの閉ざされた心を見事に解きほぐし、そのことでヒロは苦悩することになる。

偏見を持たれがちな恋愛を、「どこがおかしいのか」と正面から問いかけるようなストーリー展開。

確かに、結婚や出産というプロセスからは離れたところにいることになる同性愛という形。偏見を乗り越えた先にある未来は、果たして単純な結末だけだろうか。

一旦、同性愛を受け入れたような形を見せつつも、最終的には男女の結婚という結論に到達するラスト。答えなどないけれど、いろんな2人があっていい、という究極の答えを導き出しました。テーマやストーリーは深いものがあつたけれど、何となく釈然としない気持ちになったのは、幸せなのかどうかという問いがあまりにも大きすぎるからでしょうか。

私の中では今ひとつ、盛り上がりには欠けました。

異彩を放っていた「無痛」

今回初めて名前を拝見したのですが、立て続けに二つの小説がドラマ化されているので今注目の作家さんでしょうか、久坂部羊さん。その方の原作を映像化した「無痛」。

人の病気を外見からだけで判断できる能力を持つ町医者と、同じ才能を持ちながら大病院を作り、「無痛治療」を研究している医院長。あることがきっかけで知り合うことになった2人の医師と、正義感の塊であり時に危うい行動に出ってしまう刑事が、一家殺人事件の真相に迫る。

とにかく、ストーリー展開の異様さと複雑な心情を絡み合わせたドラマで、面白くないわけではなかったのですが、後味は不思議なドラマでした。

結局のところ、無痛治療にこだわる真の理由もわからず、最後はちょっと幻想的に終わっていくのですがそこも綺麗過ぎて不気味でした。

存在感を放っていたのは、無痛症であり、全身の毛がほとんどないイバラという青年を演じた中村蒼。優しくも、時に見せる狂気表情には底知れぬ怖さがありました。

医院長がイバラにこだわった理由、投与した薬の影響、一家殺人事件の動機・・・このバランスがドラマだとすごく雑に感じたのは残念。

小説を読めばもっと深いところまで理解できるのかもしれませんが・・・しばらくは、キャストの影がちらつくのでやめたほうがいいかな。

異彩を放っていた点では評価できるかなと思いましたが、もう一步何かがあると良かったかな。

それを思うと、同じ久坂部作品でNHKにて放映された椎名桔平主演の「破裂」のほうが、分かりやすくリアリティがありました。

ピンピンぽっくり死のうという国の政策と、心臓の活動を劇的に向上させる新薬を開発した医師との激しい攻防で、「人の死とは何か。尊厳死とは何か」という根本的なテーマに切り込む骨太な作品。

久坂部さん、注目の作家です。

半ば失速も後味悪くない「おかしの家」

途中まで大絶賛だった「おかしの家」。

満島ひかりさんの旦那様石井裕也監督が演出・脚本を手がけたドラマということで、是枝監督の大好きなドラマ「ゴーイングマイホーム」のような出来栄えを期待しつつ、途中までは映像の映画っぽさと言ひ、大人のどうしようもない心情を細かに描写してすごく良かった……のだけれど。

途中からちょっとおかしな方向に流れて行ったなあ、と思い私の中では失速気味。

それでも最終回の、オチまではっきりさせない感じはすごく良かったと思いつつも、途中の数回が何とも惜しまれる作品でありました。

深夜だから成立した作品、そして深夜こそこういうのどンドン出て欲しい!!

オダギリジョー、やはりいいですね。

そしてちょっとエロくて、女のどうしようもない感じがすごくよく出ていた尾野真千子が秀逸。シングルマザーで肩肘張ってるんだけれど、頑張り切らない女の性みたいなものが感じられました。

今回、勝地涼くんがダメなところとシリアスなところをオダギリジョーに負けないぐらいのコントラストで演じていて、今後がますます楽しみな俳優さんだなと。

映画監督が、脚本と演出を手掛けるような自由なタイプのドラマ、今後も見たい。

王道「下町ロケット」

最初から行くだらうなあと思ってはいましたが、やはり視聴率は高く、注目のドラマでしたね。「下町ロケット」。

阿部寛演じる、町工場の二代目社長が昔からの夢を捨てずにひたむきに生きる姿を、大企業や銀行との鬼気迫るやり取り、壮絶な競争に打ち勝っていくさまを描く本作。

今回は、のちに発売された「下町ロケット2」の内容も盛り込むため、前半をロケット編、後半をガウディ編を称して、かなり早い展開で物語を進めたために、結構ジェットコースター的な楽しみ方もできたのでは。

ただ、池井戸潤さんお得意の「最初はいじめ抜かれる中小企業が、最後は大企業や銀行を相手に勝ち上がる姿」を描くので、途中のいじめられ方がハンパない。大企業からバカにされ、こき使われ、銀行からは希望を打ち砕くような仕打ちをされる。これがもう辛くて、途中早送りしちゃいました(苦笑)

小説も読むと疲れるのですよね・・・最後にはスカッとするとわかっているので、先に進まないわけにはいかないのですが、そこまで辛くて苦しい。

今回は、「仕事に夢を持って」と繰り返し若者にげきを飛ばす主人公の佃航平が自信の夢を叶えていくあたり、希望のあるストーリーではありました。

日曜日にお父さんたちが見て、勇気づけられた一本だったのかな。

毎回号泣「コウノドリ」

周産期母子医療の指定を受ける病院で医師をする鴻鳥サクラを中心に、「お産」の厳しい現実について毎回テーマを設けて伝えてきた本作。

おそらく現場をつぶさに取材しただろう緻密なストーリーに、知らなかった現実を改めて感じることでできたドラマでした。

病気ではないお産。ほとんどの人が妊娠、出産に対して「安全で無事に終わられるもの」という認識を持っているけれど、そうではない現実というのもしっかりとあり、それは当人たちの決断に委ねられることもある。

突如襲ってくる病気や厳しい選択、その中で何をどう考えたらいいのか、それは誰にも正解など見えない曖昧な世界。

生きる力を信じる医療チームと、様々な問題を抱える家族の姿を描くヒューマンドラマ。

妊娠を望んでも叶わない人、望まない妊娠で揺れる心、信じていたものから突然裏切られてしまう絶望感。

妊娠は必ずしも、幸せに満ちたものではない。けれどそれでも人が誕生する瞬間は素晴らしくて尊いものだということが、しみじみ感じられました。

自分が無事に誕生してきたことに感謝するとともに、母親の偉大さをまざまざと思い知った貴重なドラマ。

最初は髪型に違和感があった綾野剛もちゃんと鴻鳥先生になりきっていて、素晴らしかった。

研修医役の松岡茉優さんも初々しい中にも、徐々に責任感が芽生えてくるその変化が良い!

先生たちにもそれぞれの悩みがあり、それを一緒に乗り越えていく姿も印象的でした。

総決算

今回は結構見るものが多くて、追いつくのに必死でした。

医療や刑事モノにもやや陰りかな・・・引き続き放映される「相棒」は、新相棒の反町隆史がどうもオーバーリアクションすぎて馴染めないのですが、まあそれも新たな相棒色ってことで、慣れるしかないのだろう(苦笑)

ガッキーといい、綾野剛といい、ビジュアル面でちょっと難色を示しがちだったモノに案外最後には慣れてはまるということもあり、見ず嫌いは何とかセーブせねばと思った次第。

そして、ジャニーズだけでなく、もっといろんなイケメン男子に活躍して欲しいと思った本年でした。

女子はニューヒロインが誕生しつつあるのかな。

深夜枠の名作には今後も期待大。

来年も素晴らしいドラマライフ送れますように。